

5

## 人間 創造

### 1. 神は、創造の六日の間でいつ人を造りましたか。

第6日に人を造り、男と女とを造りました。人を創造の最後の日に造られた理由は、人が一番すぐれた被造物だからです。すべてを造られた後に、人を造った訳は、そのすべてを人に与えるためでした。これは、神が人を特別にお世話なされることを証しします。また、最後に造られた人間は、創造の過程において何の働きもしなかったことを確実にし、人間が自分を誇ることをないようにされました。

### 2. 人は、何によって構成されていますか。

人は体と霊魂（あるいは、霊と魂）とに構成されました（創2:7、ヨブ10:11-22）。神は人の体を造る時、土を使用なさいました。それゆえ、聖書では神を陶器師と語ります（イザヤ64:8）。アダムという名は、まさに土から来ているという意味

です。人間の体は誇ることでできない材料によって造られました。それゆえ、人は自分らを偉そうにしてはならず、神と同じようになろうとする傲慢を抱いてはならないのです。常に神の前では自分を低くし、謙遜でなければならぬのです。アブラハムは自分のことをチリや灰に過ぎませんと告白しました（創18:27）。これもまた、神が人間にとって絶対主権を持つておられることを意味します（ロマ9:21）。

人の霊魂は、霊的本質によって造られました。神はチリによって人を造った後に、その鼻に命の息を吹き込まれ、それによって人は、生きている霊魂を持つようになりました（創2:7、マラキ2:16）。この霊魂は、霊的な本質を持っていますが、神の神的性質とは異なるものです。人の霊魂は被造されたもので、腐敗したり、朽ちることなく、死にません。それゆえ、人間が生きている時は、体と霊魂が結合されているけど、死ぬ時は分離されて体は腐りますが、霊魂は絶対に死にません。人の霊魂は心に住まわれることと思われまゝ。そこから、人の体のすべての部分に影響を与えます。霊魂には、色んな機能がありますが、理解力、記憶、良心、情緒、意志などです。

### 3. 霊魂が死んだり、朽ちないことについて、聖書は何と証しますか。

伝道書12章7節では、人は死ぬ時、体はチリに戻るけど、霊魂はくださった神に帰ると語っています。ルカの福音書23章46節では、イエスさまは、信仰を見せた十字架上での強盗に、死んだ後に樂園にて共にいることを告げられました。また、使徒の働き7章59節では、ステパノ執事は、自分の霊魂をお受けくださいと天におられるキリストに誓願しました。マタイの福音書10章28節でイエスさまは、人々は体を殺すことがあっても、霊魂を殺すことはできない

と語られました。一方、罪について良心に呵責が起き、審判の恐れを覚えるのは私たちに霊魂があることを証ししています。最も死んだ後に、私たちの体は朽ちてチリに戻り、その以降に、何のことも起きない訳ではありません（Iコリント 15:19）。私たちの体が死んだ後に、その霊魂は審判を受けます（ヘブル 9:27）。

#### 4. 人間が、神の形に造られたというのは、どんな意味ですか。

御父、御子、御霊なる神は、人を造る時にすべてに関与なさいました。神さまは、人を神の形に造られました。これは、他の被造物を造る時と区別される方法です。つまり、人を造る時、神の力と知恵はもっともすぐれ、人を卓越な被造物として造られました。神の形として造られたというのは、人間の肉体的な姿が神に似ているという意味ではありません。人は正しく、聖なる者として造られ、知恵と知識を持つ存在として造られたということです（コロサイ 3:9-10、エペソ 4:24）。それによって人は、神と交わることができるということです。神は人と契約関係を結び、人を祝福しました。神は人が、神の命令と律法を守ることで、神の民であることを現そうと、ご自身のかたちに造られました。従って神を知らず、神を礼拝しない霊魂は、獣と変わりありません。

#### 5. 人間が、神の形に造られた、卓越な性質とは何ですか。

人は神の形に造られたので、霊的な理解力を持っています。これは、神の御心と御業について、天上の知識と知恵を持っているということです（詩 51:6）。人は、神の聖なるすべての命令を記憶することができ、また、必ず記憶するように造られました。人は、自分の意志を持って進んで、喜びながら神の命令に従

順できるように造られました。自由意志の中には義と聖がありました（Iペテロ 1:15-16）。それで聖なるものと、正しいことを理解し、喜んで行うことができるのです。人は、情緒的に秩序があって、聖なるものを喜ぶように造られました。

人は良心を持つ真実な状態で造られ、その良心は、正しくないことについて告訴します。このような特質によって、人は、霊的な面で神に似ています。

## 6. 神の形に造られたというのは、

その心に何が刻まれているという意味であり、その目的は何ですか。

人が神の形に造られたというのは、神の御心をすべて知る存在として、そして、神の御心を喜んで移行する存在として造られたということです。それは、神さまが、人の心に律法を刻み込ませたという意味です。それで人は、神をどのように礼拝すべきであるのかを知り、他の人にどのように行動すれば、正しい生活であるのかをはっきり知っています。さらに神は、人の自由意志の中に、聖と義を与え、神の御心である律法を喜んで遂行するようにされました。それで神は、アダムと契約を結び、その心に刻まれた律法を守りなさいという命令とともに善悪を知るようにさせる木の実を食べてはならないと命じたのです。アダムはこれを守れる力がありました。いわゆるアダムの従順は、神を現わし、自分が神の民であることを証しすることです。これが、神が人を、神の形に造られた目的です。

## 7. 神が人を創造され、外的に与えた賜物は何ですか。

神は、人の靈魂に責任がある体を与えました。人間の体は美しさと力を持つ

ています。神は人に、世のすべての被造物を支配する権威を与え、その被造物たちに名前を付ける権威も授けました（創2:19-20）。

## 8. 神は、どのように男と女とを造りましたか。

神は先に、男（アダム）を造りました（創2:7）。そして男から女（エバ）を造りました。神は女を造る時に、アダムを深い眠りに入らせ、そのあばら骨によって女を造りました。女を土で用いないで、アダムから造られた理由は、神の秩序と、女を謙遜にさせようとする目的がありました（Iコリント11:8）。それで、女の名前もアダムに付けさせました（創2:23）。神は、男を助けるように女を造りました。結婚制度を制定し、男と女が互いに同伴者となるようにさせ、家庭から有益を得るようになさいました。また、それによって、神をより一層感謝するようになさせ、人類の社会が継続されるようになさいました（Iペテロ3:7）。